

KAS

# 風の谷 びゅう VIEW

社会福祉法人 風の谷  
相模原市中央区田名7236-3  
発行責任者 政野 光廣  
042-760-1033  
<http://www.kanagawa-id.org/yamabiko/>  
e-mail: ykoubou@pastel.ocn.ne.jp



この秋の新作もあります！



自閉症は、生まれながらに脳の中枢神経の機能に  
あなたに知ってほしい私たちのこと

## The Art of Autism

平成25年11月  
9日(土)・10日(日)・11日(月)

進んでいるためにひきおこされている、広汎な発達障害です。

## 今年もやります！自閉症児・者作品展

これからの季節に  
冬物はいかがでしょうか？



### 【2013年 秋号】

◇巻頭文・作品展のお知らせ	P 2	◇自閉症支援センター便り	P 3
◇研修報告(トレセミ・てんかん)	P 4・5	◇決算報告	P 6
◇ヘルパー便り・ケアホーム便り	P 7	◇後援会	P 8

別紙 相模原やまびこ会創立30周年記念式典・上映会お知らせ

発行人 神奈川県自閉症児・者親の会連合会 代表者 内田照雄 〒243-0035 厚木市愛甲2-11-6-109  
毎月15日発行 購読料1部 15円

## 共に歩む ～やまびこ会 30周年を迎えて～

光陰、矢のごとし。今年相模原市自閉症児・者親の会（やまびこ会）発足から30年になりました。自閉症の子どもたちを育てていく中で悩みを共有していくこと、将来の為に何か道筋をつくって行くことを目的に昭和58年発足した集まりです。当時は自閉症についての情報も少なく、私たち親子はあちらのサークル、こちらのサークルと通っていたときにこの会の存在を聞き入会しました。その時の会員の平均年齢は17才前後でしたが、今年の総会時の挨拶の中で平均年齢23.5才、20才から30才代が会員の半分を占めていますとのことでした。今後自閉症の事がわかるにつれて年少の方、また思春期以降の方の入会が増えるのではと思われます。

将来の為の道筋について、学校を卒業した後の進路について当時はまだ自閉症を理解してくれる企業はなく、作業所も少なく、自閉症の特性にあった作業所開所に向けて、4年後の61年施設準備委員会が設立されました。多くの人の支援を受けて平成元年4月やまびこ作業所が開所されました。それでもまだ、多くの同じハンディキャップを持ち、同じように不安を感じている人たちの為に大規模の施設が必要と、その後施設準備委員会は法人施設設立委員会に名前を改め活動、多くの方々の援助、会員の働きで、10年後の平成10年7月に社会福祉法人「風の谷」やまびこ工房が開所しました。親の会30年の中でとても印象に残る出来事でした。社会福祉法人ですのでやまびこ会とは別の組織になりましたが、自閉症児・者への理解を深める活動、社会参加の機会、地域社会における共生、社会的障壁の除去を資する目的など、やまびこ会が進めている目的と同調するところが多くあります。2ヶ月ごとに行われているおやじの会に工房の職員も出席しての情報交換。また毎月行われている箕先生の自閉症講座にも工房の職員が多く参加しています。その中で行われているワークショップではテーマに基づいて意見交換をおこなっています。

この10年の間に発達障害者支援関係の法律が整備されて来ました。発達障害についての啓発、支援体制が大きく前進していると思います。その変化を理解するには現状を見つめ、協力、情報の交換をすることによって、理解し、そして要望していく。そのためには今以上に大いに対話し関係を深める事が必要で重要な事ではないかと思えます。

社会福祉法人 風の谷 理事 柳場秀雄



### 相模原やまびこ会 作品展

「あなたに知ってほしい私たちのこと」

11月 9日（土）11:00～19:00  
 10日（日）10:00～19:00  
 11日（月）10:00～15:00

会場：おださがプラザ ラクアルオダサガ4F

問い合わせ：080-8870-2733  
[art@sagami-yamabiko.jp](mailto:art@sagami-yamabiko.jp) <http://sagami-yamabiko.jp>



## 相模原自閉症支援センター便り～面接から職業訓練へ～

普段はジーパンに無地のTシャツ（利用者が文字を気にされるため）を着て仕事をしている。最近、相談を担当するようになって、本当にこの格好でいいのかと少し考えた。8月にあるシンポジウムに参加することとなり、どういう格好をすればいいのかしっかり考えた。スーツを着るとして、上着も着ると暑い。開催地は丘の上であって、坂を登ることになる。着いた時には汗でびしょりということになりそうだ。こういう状況を考えると半袖のYシャツでいいに違いないと考え、紳士服の〇〇に行った。どういう状況で着るのかを店員さんに伝えると、長袖のシャツ、ネクタイ、上着を着て行くのが普通ですと言われた。「それなら〇〇さんで購入したものがありますので」と言って「ありがとうございます」と言われて、何も買わずに店を出た。社会性に障害がある方々と関わる仕事をしていると何が普通かは念頭に置くようにしている。

9月の初旬、残暑厳しい中、Aさんは職業訓練の面接に行った。事前の打ち合わせの中で、どういう格好をしていくのがいいのかを話し合った。自分は紳士服の〇〇さんのアドバイスがあるので、長袖のシャツ、ネクタイ、上着を着て行くのが普通ですと伝えた。でも、暑くて体調が悪くなるくらいなら、半袖のシャツでもいいと思いますと曖昧なアドバイスをした。Aさんは日中、タンクトップと半ズボンで過ごしているくらいなので、暑いのは苦手なはずだ。上着を着て行って、体調が悪くなり、面接が上手くいかなかったらどうしようと心配になった。当日は真夏日であったが、上着も着て面接に臨んだとのことであった。合格し、約2ヵ月間の職業訓練が受けられることとなった。

就労への希望は以前からあった。ただ希望する職種がすぐに就けるものではないのが、課題であった。ある時、他の利用者に職員と間違われ、遊ぶことを求められ、ショックを受けてしまうことがあった。そのショックを和らげるために、就職したいならやまびこ工場の職員みたいな仕事はどうかと訊いた。それがきっかけになって、介護の仕事を目指すこととなり、ハローワークの求職登録の時は「社会貢献したいです」と言われていた。そこで、介護職員養成の職業訓練を希望し、申し込みをされた。しかし、希望者が少なく、開講しないこととなり、販売業務などのある職業訓練へ回されてしまい面接となった。その時は大変ショックを受けていたが、面接の時、長所は法則を見つけることで、販売業務でも役に立つと思いますと答えている。就職したい強い気持ちの表れである。

職業訓練は始まった。2ヵ月間通えるのか不安はある。今までにない通勤とぞんざいな言葉遣いの人が苦手なAさんは他の人の言葉や振る舞いに落ち込まないか不安はある。何かトラブルがあった時は連絡くれるように伝えた。就職する方法は他にもある。時に辞めることも大事とも伝えた。

訓練初日、担当者から連絡があった。「Aさんは訓練が毎日あると思っていたようで・・・、面接のときに伝えたのですが・・・」実際は月に10日程と言う。実施内容の期間の項目には平成25年〇月×日（火）～〇月△日（木）とのみ記されている。それを見て、Aさん自分も月曜日～金曜日と思い込んでしまった。いや、自分がそう思い込んでいたから、Aさんも思い込んでしまったのだ。そのためAさんは定期券を購入した。期間は2ヵ月だけど、実施日数は1日かもしれないと考えることが出来なかった自分の確認不足である。職業訓練というくらいだから、実際の就労をイメージして、一般的な勤務形態に近いことを行うのだろうと思っていた。社会常識というのは難しい。その夜、Aさんから電話があった。「いえ、自分が面接の時に聞き落してしまっただけで」落ち込んでしまうことを懸念していたが、その声は明るく礼儀正しいものであった。

Aさんは就職をして、社会人になりたいと思っている。お金を稼いで、友人と遊びに行ったり、旅行をしたり、家庭に生活費を入れたり、車の免許を取得する資金を貯めたりしたい。でもいつかは本当に希望する職種に就けるか、近づいてくれることを支援者としては楽しみにしている。

（薬師丸和浩）



研修報告 ～この夏、私たちが学んだこと～  
「てんかん援助セミナー」、「トレセミ」

**てんかん**発作をお持ちの利用者はやまびこ工房にも多く在籍しています。私はやまびこ工房に来て2年

目になりますが、1度だけ発作の場面に居合わせたことがあります。以前より大学の講義や文献、先輩支援員の体験談などを通しててんかんのことは知っていましたが、実際に居合わせた時はとても不安で、先輩方の対応をただ見ていることしかできませんでした。

発作の原因は先天性・外傷性・感染症など様々ですが、睡眠不足・疲れ・光刺激などが誘因と考えられています。その為、工房では睡眠の時間や質、日中活動・ガイヘル・短期入所の疲れ等を考慮して日々の支援にあたっています。そんな中、2013年8月1日(木)・2日(金)に開催された「第18回てんかん援助セミナー」に参加する貴重な機会を頂きました。

セミナーでは主に以下の内容が話されました。

<てんかん発作の介助と観察>

てんかんは反復する脳の慢性疾患であり、手術が有効な場合もある。医療現場での発作は稀であり、家族や職場・福祉施設の職員が居合わせることが圧倒的に多い。その為、発作の前兆・はじまり方・経過・予後に関する本人の様子と周囲の環境を具体的に観察・記録し、医師に伝えることが診断・治療の大きな一助となる。また発作を映像に残すことや、本人が記録を付ける(居合わせた人にインタビューする)ことも有効である。

<てんかん発作と治療法>

人間の脳の作りと働きからすると、発作のメカニズムは神経細胞による電気信号の異常な興奮によるものであり、“正常な脳機能による運動”と“発作時の症状”は表裏一体である。また薬物治療は発作の軽減・抑制を図るものである為、寛解した場合は再発のリスクを含めて、服薬の終結を検討することも必要になる。

<てんかん医療の地域連携>

薬には作用と副作用があり、副作用とは“本人にとって好ましくないもの”である。「落ち着いて学校生活を送りたい」「きびきびと仕事がしたい」等の本人の希望・年齢・職種・将来像などをふまえて何を優先させるか？その人の生活をベースに薬の種類・量を調整し、発作をコントロールすることで多くの方が社会で生活している。その適切な治療を提供する為にも、てんかん専門医・かかりつけ医・家族・学校・職場・地域のネットワーク構築による医療連携が必要とされている。

<てんかんと発達障害>

“ボーっとしている”、“落ち着きがない”といった他者からすると問題と捉えられる本人の様子・行動について、それは発作によるものなのか？服薬か？その日の体調あるいは生活習慣か？それとも、その人の気質か？など、一つの状態に対して多様な見解を持ち、原因を見極めることが重要になる。その見方ひとつで本人の生きにくさや、てんかんによる二次的障害(弊害)が生まれてしまうこともある為、発作の症状だけでなく個々のライフステージや成長段階に合わせて治療・支援を提供することが必要になる。

今回のセミナーを通して多くの事例にふれ、講師(医師)の専門的な知見や対応に関するアドバイスを聞くことができ、てんかん発作と対応について整理することができました。一方で、てんかんだけでなく自閉症や知的障害などを併せ持つ場合はご本人の想いに気付くことや共感することが難しく、支援における課題はまだ山積みだと感じました。それでも、常に“いつ、てんかん発作がおこるか…”と心配しているご家族、支援者、そしてご本人に寄り添いながら、今回のセミナーで得たものを今後の支援に活かしていきたいです。(田中)

**“TEACCH プログラム”**この言葉はやまびこ工房に来て、初めて聞いた言葉です。TEACCHとは、Treatment

and Education of Autistic and Related Communication Handicapped Children (and adults)の略語です。今回、このTEACCHプログラムについて学ぶ絶好の機会である「自閉症療育者のためのトレーニングセミナー」(通称「トレセミ」)に参加させていただきました。

“絵カードを使えばいい”などTEACCHに対する誤解の一人歩きが起こっているという話が初めにありました。そのような限定されている考えではなく、一人一人の今できることをアセスメントした上で、絵や写真や文字、または具体物で示すなどの多くの方法を使い、支援していくことです。個別化し、それから柔軟な考えを持って組み立てていくことが、基本にあるのだということを学びました。

1日目は講義を中心にTEACCHの理念や、自閉症の学習スタイル、構造化などについて学びました。構造化とは、伝えたい情報を自閉症のその人のつまずきを補い、その学習スタイルに合わせて分かりやすく伝えていくことです。普段から目にしているスケジュールやワークシステム、自立課題一つにしても、どこまで彼ら一人一人に合わせて提供できているのか、日常の取り組みについて見直す部分が多くあると感じました。

2日目からは、実際にモデル児・者の方たちと関わり合いながら、学んでいきました。自立課題作りやコミュニケーションサンプリング、家庭生活スキルの課題設定、余暇活動など実際に取り組んでみては、その様子を観察し、再構造化することを繰り返しました。

4日目の家庭生活スキルでは、指示書を作り、実際に掃除や調理の方法を伝えていく場面がありました。フルーツサンド作りを設定した時には、グループ内で手順の確認が足りていないことや、予想外のことが起きてしまうと言葉掛けが多くなってしまふことで、モデル者の方の混乱を招いてしまうこともしばしばありました。以下のことが、講義で話された伝え方の良くない例になります。

- ① 援助者がやり方を理解していない。
- ② 話が長く、言葉が多い。早口。
- ③ 怒るのは得意。正しく出来ても褒めない。
- ④ 教える人が変わると、やり方も変わる。
- ⑤ 「あれ」「これ」「それ」で教えようとする。
- ⑥ 手順がころころ変わる。
- ⑦ 適当に見本を示すだけ。



工房でも新しい取り組みや、見直していくときには、その方法を伝えていく必要があります。7つのことを見返してみると、思い当たることが多く、反省しきりでした。トレセミでも、講義の時間以外はほぼグループでの活動になります。様々な立場や価値観を持った人間同士で話し合っていくことで、多面的に物事を捉え、新たな発見を見出すこともできました。

自閉症である彼ら一人一人に個別化した対応をしていく過程で、支援者間で違った考え、見方をしていることもあります。そこで差異が生じるにしても、関わっていく人間全員が確認し、対応していくことが良い支援に繋がるのだと感じました。この充実した5日間の中で学べたことをひとつでも多く取り組んでいけたらと思います。(小川)

## 社会福祉法人風の谷 平成24年度決算状況報告

(単位：千円)

## (1) 資金収支計算書(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

区分	収入額	支出額	資金収支差額
經常活動による収支	253,295	189,307	63,988
施設整備等による収支	0	0	0
財務活動による収支	17,380	16,180	1,200
合計	270,675	205,487	65,188

## (2) 事業活動資金収支計算書(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

区 分	本年度決算	前年度決算	増 減
事業活動収支差額	67,624	67,412	212
事業活動外収支差額	-1,694	-1,735	-41
特別収支差額	0	0	0
当期活動収支差額	65,929	65,677	252
前期末繰越活動収支差額	278,894	259,717	19,177
当期末繰越活動収支差額	344,824	325,395	19,429
次期繰越活動収支差額	344,824	278,895	65,929

## (3) 貸借対照表(平成25年3月31日現在)

資産の部				負債の部			
勘定科目	当年度	前年度	増減	勘定科目	当年度	前年度	増減
流動資産	272,998	223,688	49,310	流動負債	11,933	13,910	-1,977
固定資産	498,155	498,992	-837	固定負債	164,760	172,905	-8,145
				基本金	55,912	55,912	0
				国庫補助金等特別積立金	89,623	96,957	-7,334
				その他の積立金	104,100	104,100	0
				次期繰越活動収支差額	344,824	278,895	65,929
資産の部合計	771,153	722,680	48,473	負債及び純資産合計	771,153	722,680	48,473

## (4) 財産目録(平成25年3月31日現在)

区 分	金 額
資産の部	771,153
負債の部	176,694
差引純資産合計	594,459



## ヘルパー便り其の七



Aさんとの初めての外出です。今回の計画は古淵のお祭りにお出かけ、食事、そしてAさんが大好きで集めているグッズをイオンで2つ買うという内容でした。Aさんはお祭りをとても楽しみにしていたようですが、当日は台風の影響で大雨。残念ながらお祭りは中止になってしまい、イオン店内での買い物と食事のみに変更になりました。

その時の食事場面でのことです。Aさんがラーメンを注文され、併せて店員さんに「取り皿ください」とお願いしました。実際にラーメンがテーブルに用意されるとヘルパーに「分けてください」と教えてくれました。きっと普段から熱いものや麺類を召し上がる時には、このような配慮によってAさんは安心して食事を楽しんでいることと思えました。

もう1つ印象深い場面がありました。下りのエスカレーターに乗る際にヘルパーに手を伸ばしてヘルパーの手を握ってきました。おそらくエスカレーターに乗るタイミング等々、Aさんの中で不安感があるのでしょう。ヘルパーに手を添えてもらうことで安心だったのではないかと思います。

この小さなやり取りを通して、場所の案内やお会計のサポート、予めの準備やコミュニケーションの支援という不安を軽減するための周囲が調整する部分と、ご本人がご自分で「困っている」「手を貸してほしい」と、実感して頼る（動作のサインも含めた表現）場面を消さないように調整すること、この2つを見極めることの難しさを実感しました。

支援者が先回りして支援をし過ぎていると、ご本人たちにとっての本当に必要な部分を抽出しにくくなる場合もあるのでは…？このような視点も心に留めて、これからもいろいろな方と関係を深めてゆけたらと思います。（大南）



## ケアホームナウシカ便り



前回のナウシカ便りではプランターで野菜を栽培している事をお伝えしました。今年はナスとゴーヤーとミニトマトが実りました。特にミニトマトは豊作で、ナウシカの食卓の彩を添えてくれました。

そこで今回は食事をテーマにしてみたいと思います。

食事に関しては好き嫌い等もありご家庭ではお悩みの方も多いかと思います。ナウシカでは5名の方が暮らしており、それぞれに好き嫌いがありますが皆様食事の時間を楽しみにされ、美味しそうに召し上がっています。そのために行っている工夫を紹介いたします。

第一に、ナウシカはご家族のいる住み慣れた家を離れて暮らしている場所なので、安心して食事をしていただくためにも使用している食材について伝えることから始めています。初めて出る料理や中身が分かりにくいものだと、中々箸をつけないこともあります。苦手な食材でもきちんと伝えることによって安心できる様子で召し上がっていただけることもあります。

また、苦手な食べ物は好きな食べ物に混ぜたり、好きな味付けにすると召し上がられることがあります。野菜類があまり好きでない方も多いですが、そんな方でもみそ汁やスープの中に入れると美味しそうに召し上がってくれています。また具が食べられなくても野菜の栄養分がスープの中に溶け出すのでスープを飲むだけでもいいようにとナウシカのみそ汁は具沢山になっています。

他にも様々な工夫を行っていますが紙面の都合上すべてを今回紹介することは出来ないのもまた別の機会で紹介させて頂ければと思います。（田辺）



## 後援会のページ

今年もやまびこ工房の屋上で相模原納涼花火大会を鑑賞しました。

前日の天候が悪く、当日は開催されるか心配でしたが、晴れて暑さもなく涼しい風が屋上を通り、空気が澄んでいたせいか(?)去年よりクリアで、とてもきれいな花火を見ることが出来ました。

そして、今年はいつにも増して猛暑の中、工房の利用者さんや職員さん、家族会のお母様、そして後援会でブルーベリーを一粒一粒摘み取り、おかげさまで今年も美味しいジャムが出来上がりました。

ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

手探りで始まった後援会事務局という初めての役割。後援会バザー、花火大会、手作りジャムづくりと行事に取り組む中、先輩のお母様方の自閉症の子育てのお話は、とても参考になり勉強となりました。

今後とも後援会へのご協力よろしく願いいたします。

風の谷後援会事務局: 縄島由美

平成 25 年 6 月 13 日～平成 25 年 10 月 2 日 (五十音順敬称略)

### 【新規・個人】

菊池孝子 (横浜市)

### 【更新・個人】

(相模原市)

岩崎圭子 内田まゆみ 川勝登美子 菊間政子 小林義明 佐藤清一 鹿野徹子 島森隆夫

縄島賢一 原徹 古橋須美 宮田勇 森合貞雄 山城貴子

(相模原市外)

藤野孝夫 藤野喜友 (厚木市) 久保伸司 (座間市) 田中ヒロ子 (海老名市) 村岡嘉紀 (大和市)

成瀬富子 (平塚市) 上野悟 (川崎市) 上城功 (八王子市) 岩崎秀二 (国分寺市)

日野資純 日野朝子 (静岡県) 源新和子 宮手敏雄 (岩手県) 江澤恵 下田浄 (埼玉県)

中島和之 (北海道) 村岡ヒサ (青森県) 合津紀子 (長野県) 塚本寿子 (福井県)

佐々木継生 (福岡県) 村上信治 (熊本県)

### 【ご寄付・ご協力】

(有) 伸和トラスト ワーカーズコープ・キュービック

### 風の谷後援会のご案内

風の谷後援会は、自閉症者の自立と社会参加を目指す『社会福祉法人 風の谷』を支援することを目的にしております。主旨に御賛同頂き、皆様の温かい御支援を頂きますようお願い申し上げます。

一般会員 一口: 3,000 円/年間

団体会員 一口: 10,000 円

※一口以上、何口でも承ります。現金を添えてのお申し込みも承ります。

<お問い合わせ先>

〒252-0244 『風の谷後援会』事務局

相模原市中央区田名 7236-3 社会福祉法人「風の谷」内 TEL: 042-760-1033 FAX: 042-760-7115

郵便振込先 口座番号 00230-1-15345

他の金融機関からの振込先 ゆうちょ銀行 9900 店番 029 当座 0015345